
平成20年1月期中間決算 参考資料

平成19年8月31日

(株)サガミチェーン

東証・名証1部上場 コード:9900

設立 :1970年3月 資本金 63億300万円

株式会社サガミチェーン

目次

1.連結対象企業の事業内容	-----	P2
2.平成20年1月期中間決算の概況	-----	P2
3.財政・キャッシュフローの概況	-----	P3
4.平成20年1月期の業績予想	-----	P3
5.店舗展開の状況	-----	P4
6.平成20年1月期中間決算の背景	-----	P5
7.中期計画について	-----	P6
8.追補	-----	P6

1. 連結対象企業の事業内容

連結子会社の対象範囲は連結子会社4社と持分法適用関連会社1社となっております。

[連結子会社]

名称	住所	資本金又は 出資金(千円)	事業の内容	議決権の所有 割合(%)
株式会社ディー・ディー・エー	名古屋市守山区	200,000	飲食店の経営 FC店舗への材料提供及び経営指導	100.0
株式会社サガミサービス	名古屋市守山区	10,000	損害保険及び生命 保険の代理業務	100.0 (75.0)
株式会社エー・エス・サガミ	名古屋市守山区	70,000	飲食店の経営	71.4
上海盛賀美餐飲有限公司	中国上海市	110,000	飲食店の経営	84.4 (39.0)

[持分法適用関連会社]

株式会社浜木綿	名古屋市昭和区	284,160	飲食店の経営	23.1
---------	---------	---------	--------	------

議決権の所有割合の()書きは間接所有部分で内書であります。

2. 平成20年1月期中間決算の概況

連結ベースの経営成績

単独ベースの経営成績

単位 (百万円/円)	平成18年 7月期	平成19年 7月期	前年比 (%)	単位 (百万円/円)	平成18年 7月期	平成19年 7月期	前年比 (%)
売上高	12,451	12,715	2.1	売上高	11,099	11,324	2.0
営業利益	25	13	-	営業利益	111	80	-
経常利益	8	53	572.7	経常利益	84	53	-
当期純利益	153	376	-	当期純利益	195	395	-
一株あたり 当期純利益	6.28	15.45	-	一株あたり 当期純利益	8.00	16.22	-

中間配当について

中間期末の配当につきましては一株あたり6円50銭を据え置くことになりました。

株主優遇策について

平成19年7月20日現在に当社株式を一千株以上保有の株主様に対し、1万5千円相当(通期換算 3万円)の優待食事券を進呈いたします。

3. 財政・キャッシュフローの概況

連結財政状態

単位 (百万円 / % / 円)	平成18年 7月期	平成19年 7月期
総資産	21,246	20,718
純資産	15,592	15,190
自己資本比率	73.3	73.3
一株あたり純資産	638.85	622.04

連結キャッシュフローの状況

単位 (百万円)	平成18年 7月期	平成19年 7月期
営業活動によるキャッシュフロー	136	45
投資活動によるキャッシュフロー	229	307
財務活動によるキャッシュフロー	139	289
現金及び現金同等物 期末残高	4,312	3,940

設備投資について

中間期末における連結設備投資は 2億89百万円 (H18.7実績 1億97百万円) となりました。

減価償却費について

中間期末における減価償却費は 2億73百万円 (H18.7実績 2億75百万円) となりました。

4. 平成20年1月期の業績予想

連結ベースの業績予想

単位 (百万円 / 円)	平成19年 1月期	平成20年 1月期	前年比 (%)
売上高	26,241	26,450	0.8
営業利益	582	675	15.8
経常利益	637	730	14.5
当期純利益	303	0	-
一株あたり 当期純利益	12.43	-	-

単独ベースの業績予想

単位 (百万円 / 円)	平成19年 1月期	平成20年 1月期	前年比 (%)
売上高	23,535	23,750	0.9
営業利益	427	570	33.2
経常利益	469	600	27.9
当期純利益	250	50	80.0
一株あたり 当期純利益	10.26	2.05	-

連結ベースの業績予想について

- (1) 8月24日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を開示し、通期業績予想を修正いたしました。
- (2) 通期の既存店売上高は前年同期比「サガミ 1.5%増」「どんどん庵 1.0%増」を見込み、売上高は264億50百万円を計画しております。
売上原価率は 30.0%、販管費 178億50百万円を見込み、営業利益を 6億75百万円、経常利益を 7億30百万円、それぞれ計画しております。
- (3) 特別利益は「投資有価証券売却益 2億04百万円」「その他特別利益 1億06百万円」の3億11百万円を計画しております。一方、特別損失は役員退職慰労金制度廃止に伴う打ち切り支給による「役員退職慰労金 3億83百万円」「減損損失 2億31百万円」等により6億94百万円を計上する見込みです。これにより当期純利益は±0円となる計画です。

5. 店舗展開の状況

	平成19年 1月期	平成19年7月期			平成20年1月期 計画		
	店舗数	出店	閉店	店舗数	出店	閉店	店舗数
サガミ	176	-	1	175	1	3	174
どんどん庵	80	-	-	80	5	-	85
じゅうはち家	4	-	1	3	-	1	3
あいそ家	4	-	-	4	-	-	4
さがみ庭	3	-	-	3	-	-	3
あんかけスパDONDONあん	5	-	-	5	2	1	6
上海盛賀美	3	-	-	3	1	-	4
その他	-	-	-	-	2	-	2
合計	275	-	2	273	11	5	281

中間期末の店舗展開の状況について

業態変更を含む新規出店はありませんでした。

一方、閉店は「サガミ 1店」「じゅうはち家 1店」の 2店となりました。

これにより期末の店舗数は 273店（純減 2店）となりました。

平成20年1月期の出店・閉店の計画について

業態変更を含む新規出店は「サガミ 1店」「どんどん庵 5店」「上海盛賀美 1店」「その他業態 4店」の11店を計画しております。一方、業態変更を含む閉店につきましては「サガミ 3店」「じゅうはち家 1店」「あんかけスパDONDONあん 1店」の合計5店を計画しております。

これにより平成20年1月期末の店舗数は 281店（純増 8店）を計画しております。

6. 平成20年1月期中間決算の背景

- (1) 平成20年1月期中間決算の売上高は連結決算初の増収。経常利益は2期連続の増益となりました。なお、当期純損失の計上は7期連続であります。
- (2) 中間期末の売上高は前年同期比較 2億64百万円の増収となりました。これは「麺+素材」をテーマにしたメニュー政策に加え、積極的な販売促進が奏功し、既存店売上高が前年同期比「サガミ 1.2%増」「どんどん庵 4.5%増」と堅調に推移したためであります。
なお、3月20日発表の業績予想（以下 期初予想）に対し1億84百万円減収となりました。これはサガミ既存店売上高前年比を期初予想 4.5%増で見込んでおりましたが、台風の影響や深夜時間帯の客数減少等により期初予想を下回ったためであります。
- (3) 小麦粉や天ぷら油等の値上げにより、仕入価格が上昇する懸念はありましたが、中間期末の売上原価率は 30.0%と前年同水準を維持する事ができました。
- (4) 販管費は前年同期比較 1億45百万円増の 88億89百万円となりました。これは積極的な販売促進の実施により広告宣伝費が92百万円増加した事に加え、人件費が 97百万円増加した事などによるものであります。
なお、期初予想に対しましては概ね計画どおりの推移となりました。
- (5) 営業利益におきましては前年同期比較 39百万円増益の13百万円、経常利益は前年同期比較 45百万円増益の 53百万円となりました。期初予想に対しましては、売上高が期初予想を下回ったため、営業利益 96百万円の減益、経常利益 71百万円の減益となりました。
- (6) 特別利益は「投資有価証券売却益」等により 2億07百万円。特別損失は役員退職慰労金制度打ち切り支給による「役員退職慰労金」や「減損損失」等により 5億64百万円、それぞれ計上いたしました。これにより当期純損失は前年同期比較 2億23百万円減益の 3億76百万円となりました。
- (7) 和食麺類店「サガミ」の既存店推移は客数が前年同期比 1.1%、客単価が前年同期比 0.6%とそれぞれ増加しております。これにより現金売上高は 1.2%増となりました。セルフサービス麺類店「どんどん庵」の既存店推移は客数が前年同期比6.2%増、客単価が前年同期比 1.2%減となり、現金売上高は4.5%増となりました。

7. 中期計画について

中期計画策定の背景

中期計画策定時点における中長期的な日本経済・業界環境は見通しがたたない状況です。しかしながら、当社を取巻く環境がどのように変化しようとも、それに柔軟に対応できる企業でなければなりません。さらに、どのような環境であっても「うどん・そば・みそ煮込」を通じ、お客様、従業員とその家族、お取引先様や株主様等、当社を取巻くステークホルダーに「ありがとう」と言われ続けるサガミグループを目指さなければなりません。そこで、当社は「『ありがとう』がうれしい」をスローガンに掲げ、経営理念の実現に向けて様々な政策を推進して参ります。

その第一歩として「新たな成長ステージの構築（スピードとチャレンジ）」をテーマにした中期計画を策定いたしました。

中期計画「新たな成長ステージの構築（スピードとチャレンジ）」

当社は平成18年1月期から三年間に亘り、「次世代に向けた経営基盤の強化」をテーマとする中期計画を推進してまいりました。これにより、減損会計の早期適用、不採算店の整理、取締役の若返り、政策の大転換等を果たし、新しい戦略に転換する準備が概ね整ったと判断いたしました。

そこで、先述のとおり全社員の目標を再定義し「『ありがとう』がうれしい」をスローガンに掲げ、経営理念の実現に向け、様々な政策を推進して参ります。

その第一歩が、平成23年1月期を最終年度とする三ヵ年計画です。これは「新たな成長ステージの構築（スピードとチャレンジ）」をテーマに「既存店の再生」「コストコントロール」「人材育成」「サガミブランドの向上」の四つの政策を展開する内容であります。この取り組みを推進し実現する事により、新たな成長基盤が構築できるものと確信しております。

数値目標

平成23年1月期

売上高	：連結	291億円	単体	260億円
経常利益	：	15億円		13億円
ROE	：	4.8%		3.4%

8. 追補

その他開示書類について

8月31日付けで「商品価格改定に関するお知らせ」を開示いたしました。

ディスクロージャーポリシー (Disclosure Policy)

(1)基本方針

サガミグループは、「食文化を通じて地域社会に奉仕する」企業を通じてお客様に奉仕する」とい経営理念のもと、すべてのステークホルダーに対し、透明性、公平性、継続性を基本に証券取引法及び上場取引所の定める法令 規則を遵守し、タイムリーな情報提供に努めます。

(2)情報開示の方法

東京証券取引所が定める適時開示規則に該当する情報の開示は、同取引所へ事前説明後、同取引所の提供する適時開示電子情報システム(TDnet :Timely Disclosure Network)に登録し提供しています。TDnet 公開後、すみやかに報道機関に同一情報を提供するとともに、当社ホームページへも掲載いたします。ただしシステムの都合上、これら情報の当社ホームページへの掲載が遅れることもあります。

また、適時開示規則に該当しないその他の情報につきましても、適時開示の趣旨を踏まえて適切な方法により正確かつ公平に開示する方針です。

(3)業績予想および将来の見通しについて

サガミグループの計画、将来の見通し、戦略などのうち、過去または現在の事実に関する以外は、将来の業績に関する計画や見通しであり、これらは現時点で入手可能な情報による判断に基づいております。

したがって、将来の業績等につきましては、様々なリスクや不確定要素の変動および経済情勢の変化などにより異なる場合があります。

(4)沈黙期間について

サガミグループは決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算発表日の一ヶ月間前の一定期間を「沈黙期間」としております。この期間は、決算に関する質問への回答やコメント、IR活動を控えることとしております。ただし、この沈黙期間中に業績予想を大きく変動する見込みが発生した場合には、開示規則に従い適宜公表いたします。

なお、沈黙期間であっても、すでに公表されている情報に関する範囲のご質問等につきましては対応いたします。

(5)ディスクロージャーポリシーの遵守

サガミグループは、「企業の社会的責任 (CSR :Corporate Social Responsibility)」の観点からもグループの役職員全員に上記のディスクロージャーポリシーを周知徹底し遵守します。